

エコアクション21

環境経営レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

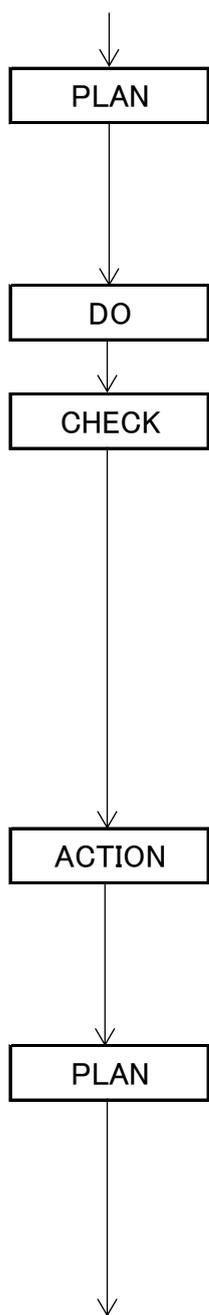
発行日 : 2023年6月24日

改訂日 : 2023年8月18日

(対象期間2022年4月～2023年3月)

目 次

1.組織の概要	3
1)事業者名及び代表者名	
2)所在地	
3)環境管理責任者	
4)事業の内容	
5)事業の規模	
6)EMS実施体制	4
2.認証・登録の対象範囲	4
3.環境経営方針	5
4.今年度の主要な環境経営計画の内容	6
5.今年度の環境経営目標およびそれに対する取り組み結果	7
6.取り組み結果に対する評価	8
7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
8.教育訓練体制についての評価	10
9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
10.代表者による全体評価と見直し・指示	11
11.次年度の活動管理について	12
12.中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)	12
13.次年度の主要な環境経営計画の内容	13



1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷達也

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者	総務部長	尾関 寧
連絡先	電話:0567-25-2356	FAX:0567-26-3013
事務局	業務部業務課係長	柴田 聡

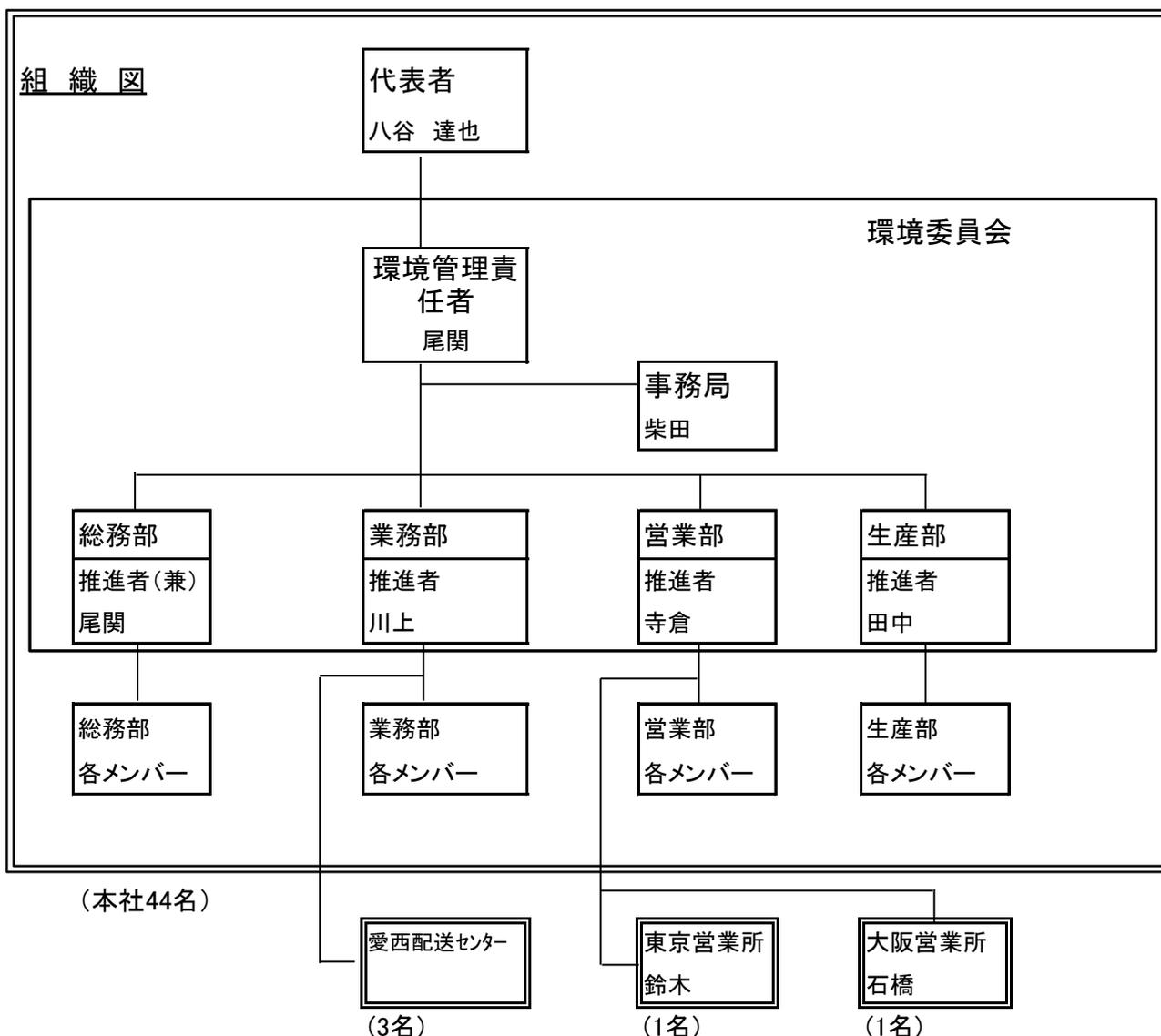
(4)事業の内容

グラビア印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

売上	14.2億円(2022.4月～2023.3月)
従業員数	49名(2023.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場合む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

(6)EMS実施体制



役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	社長 八谷達也	環境方針作成 環境管理責任者任命 活動に必要な各種資源用意 代表者による活動全体の評価と見直し
環境管理責任者	総務部部长 尾関寧	EMS総責任者 システムの構築 運用状況の監査 システムの適合性・活動の実績を社長へ報告
事務局	柴田聡	全体計画立案、文書作成管理、活動の実績集計、法規等取りまとめ EMS事務管理 環境活動レポートの作成 啓発チラシの作成
環境委員会	上図の通り6名	各部門の活動計画の立案 手順書の作成
EMS推進者	各部・部、課長	教育訓練の実施、計画の実施状況確認・記録 自部門の問題点の発見
一般メンバー	上記以外の全従業員	環境方針の理解 取り組みへの積極的な参加

2. 認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラビア印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、

東京営業所、大阪営業所

環 境 経 営 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

環境に配慮した商品を通じて、お客様の満足度を向上させられるように取り組みます。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビア印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビア印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日 : 2009年 3月31日

最終改定日 : 2020年 2月 1日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 達也

4 今年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み

購買電力量

対象部署 責任者

- A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付
- B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房22℃
- C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し
- D) 機械のメンテナンス体制の充実
- E) 生産設備可働率の向上

全部署	環境管理責任者:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関
生産部	工場長:田中
生産部	工場長:田中

ガソリン・軽油の使用量

- A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)
- B) 低速走行の励行、急発進の中止
- C) 車のエアコン設定温度の見直し
- D) 点検・整備の励行
- E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減
- F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析

全部署	環境管理責任者:尾関
業務部	業務部部长:川上

LPGの使用量

- A) 機械のメンテナンス体制の充実
- B) 生産設備可働率の向上
- C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮

生産部	工場長:田中
生産部	工場長:田中
生産部	工場長:田中

2) 廃棄物排出量の削減取組み

一般廃棄物・事業系廃棄物

- A) コピー紙の再利用の促進
- B) 紙管の回収及び再利用の促進
- C) 再生紙利用の推進

全部署	環境管理責任者:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関

産業廃棄物

- A) 良品の不良化の防止
- B) 試刷りの適正利用
- C) ロス・製造不良の削減
- D) オペレーターの技術向上

営業/業務	業務部部长:川上
生産部	工場長:田中
生産部	工場長:田中
生産部	工場長:田中

3) 水使用量の削減取組み

- A) 節水ステッカの貼付
- B) 手洗等の節水の徹底
- C) 漏水チェック
- D) 工場内の循環水の水量・水質の管理

総務部	総務部部长:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関
全部署	環境管理責任者:尾関
生産部	工場長:田中

4) グリーン購入の取組み

- A) 事務用品のグリーン購入の推進
- B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用
- C) 地元業者の利用

業務/東京/大阪	業務部部长:川上
生産部	工場長:田中
業務/東京/大阪	業務部部长:川上

5) 環境配慮品、サービスの取組み

- A) 溶剤を使用しないラミネートの推進
- B) 包装資材の古紙利用の促進

営業部	営業部次長:寺倉
業務部	業務部部长:川上

6) 有害化学物質の使用量削減取組み

- A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案
- B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え
- C) インクの使用量の削減
- D) 5S活動によるインクの整理
- E) インク使用量の管理
- F) 空調機の使用管理
- G) 残インクの再利用量の増加

営業部	営業部次長:寺倉
生産部	工場長:田中
全部署	環境管理責任者:尾関
生産部	工場長:田中

5. 今年度の環境経営目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2020/4～2021/3)	今年度目標値 (基準年-2%)	今年度実績値 (2022/4～2023/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)		48,728	47,753	総排出量: 627,032 kg-CO2 44,289	-7.3%	○
内 訳	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	26,520	25,990	25,227	-2.9%	○
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	16,140	15,817	14,667	-7.3%	○
	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	71,115	69,693	62,213	-10.8%	○
廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)		14,609	14,317	12,598	-12.0%	○
水使用量(m ³)		1,317	1,291	1,851	+43.4%	×
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進 ノンソルラミネートの生産高は昨年比+16.9%で8890万円となり 7500万円を維持するという目標を達成。ただし内製比率は-2.7% ポタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進 バイオマスインキ対象品、当期間中に100アイテム以上増加。				○ ○
資源使用量削減の取り組み		廃プラスチック中の再生品の割合について25%以上を目指す →今年度は27.0%となり目標を達成				○
有害化学物質使用量 削減の取り組み		インキ・溶剤使用量あたりの印刷生産高を2020年度を100とした指標 で2026年度までに103を目指す → 今年度は109となり目標を達成				○

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、アスエネ(登録番号A0678)の2020年の値0.374を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてアスエネの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

- 電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
- LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)
- ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所
(ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)
- 水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所
- 廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果: 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO₂換算値が前年比で単純量では+5.4%と増加しましたが、売り上げがそれ以上に伸びたため目標に対しては-7.3%と成り達成しました。

評価: 電気使用量、LPG使用量、化石燃料使用量ともに目標を達成しました。

LPG(売上1億円あたり)

前年比 -5.67%で目標に対しても -7.3%と達成することができました。

現在LPGは印刷工程の乾燥ユニットでの使用のみとなっているが、LPG使用量を印刷機の加工実績で割った指標は前年比で3%程度良化していました。

当社の印刷機の中で一番動きが悪い機械の稼働タイミングを毎日少しずつ加工していたものから特定の日にまとめて加工するようにして効率化をはかりました。

電力(売上1億円あたり)

前年比 -8.5%と減少し、目標に対しても -2.9%と達成することができました。

今年度の途中より、変圧器を最新の規格のものに新調したため変圧時の損失がカタログスペック上で2%相当改善すると見込まれていましたが、それにさらに製品値上げの影響を取り除いてもまだ予想よりも望ましい数値となりました。

受注量が増加したものの、働き方改革により残業時間の制限が厳しくなり数年前には増えた受注量を特定の機械でこなしていたものが、今年度は普段の稼働率が低い機械に振り分けることになった結果、機械間の終業時間のばらつきがなくなりました。そのため空調機・照明なども効率よく使用されたものと予想されます。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で -1.38%と減少し、目標値に対しても -10.8%となり目標を達成することができました。

そのうち、ガソリンは前年比で -3%の減少となりました。主な要因として今年度の途中より営業車のうち1台が水素燃料電池車になり化石燃料の使用はなくなりました。

それにより本来は6%の削減が期待されていましたがコロナ禍の影響が減り、訪問による営業活動が活発になって走行距離が増えたため3%の水準に収まりました。

軽油については、前年比で +2%となりました。配送体制の見直しがあり1トントラックが3トントラックに更新されたため燃費の数字も若干下がり、積載量が増えたのに伴い営業車で納品していた部分も担当するようになったなどで走行距離も増えたためこの水準になったものと考えられます。

2) 廃棄物等総排出量(売上1億円あたり)

結果: 廃棄物排出量については、前年比では -12.3%と減少し、目標に対しても -12%と目標を達成することができました。

評価: 廃棄物の種類ごとに見ると、前年に引き続いて木くず・紙くずが増えています。木くず・紙くずについては今年度、世界情勢による原油の入荷難と電力費の高騰により、国産品の原材料の入手が困難となる時期がありました。そのため、当社では輸入品の原材料を確保して製造を行いました。その際に輸入品は船舶での輸送に耐えるために木材で嚴重に梱包されているため、当社で使用する際に取り除かれた木材が大量に発生することとなりました。

廃プラスチックについては、売り上げ高に依存しない単純量としても減少しました。ロス削減の取り組みの効果も当然出ているのですが、今年度は製品の規格変更や廃盤に伴う不良在庫化が少なかったため、不良在庫化製品の廃棄量が減りました。ただし、潜在的に廃盤を控えていたり、処理は確定しているものの細かい条件を交渉中であり動かさない在庫製品もあり、年毎のバラつきもあるため楽観視はできません。廃油についても前年比で減少したものの、使用済み調合インキの整理が滞った影響もあるため、楽観視はせずしっかりと管理していきます。

3) 水使用量

結果: 水の使用量については、前年比で +13.8%となり、目標値に対しても +43.4%となり達成することができませんでした。

評価: 今期の前半は前年度比で -10%と減少傾向にありましたが、期の後半からノンソルラミネート機の温度調整器が1台増加したため、使用される水量が増えるものと想定されていました。その中で11月から使用水量が増加に転じました。ところが3月になり想定を超える増加幅で水量が増えたため、次年度にはなりますが2023年5月に漏水の調査を行い、漏水が発生していることが分かりました。水量の増加は把握できていたため、対応が遅れたことが反省点となりました。

4) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

今年度より生産工賃高7500万円を保持するという目標を立てていますが、今年度の実績は前年比 +16.9%の 8890万円となり目標を達成しました。人員配置を他の部署からも融通するなどして、働き方改革に沿った中で最大限機械を回せるように努めましたが、物理的に上限に近付いています。それ以上の受注量がありました。外注メーカーに下請けに出すことになったため、内製化率は減少しました。

ボタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進

2026年までに100アイテム以上の製品にバイオマスインキのマークをつけて製造するという目標を立てていましたが、今年度のうちに100アイテムを達成しました。業界としても、当社以外の包材を見てもマークが付与されているもののがかなり増えており予想以上の速度で普及していくものと予想されます。

5) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

インキの単位重量あたりの生産高は、前年比で +12.4%の増加となりました。

今年度より 2020年の同指標を100として、2026年までに103を目指すという目標が立てられていましたが、今年度の指標は 109となり今年度の時点で達成されました。

前年度にインキタイプの切り替えにともない大量に余剰を確保した影響で、今年度のインキ購入量は例年よりも抑えられたため指標は良くなりました。次年度以降この数字を確保できるように努めていきます。

溶剤再生機の稼働実績は昨年とは同程度でした。過去の実績に比べると年々減少していますが、働き方改革によって残業時間を短縮しているため、定時の時間内でやれる範囲で考えれば十分な稼働がなされているものと考えられます。

空調機の使用管理

空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しています。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で -9.7%となり今年度も大幅に減少しました。製品在庫の数量も増え、エレベーターの稼働時間は増加していると思われるが、昼間において作業の精度に支障が生じない程度に照明を使用せずに外光を取り入れて作業するようにしているため、その効果が出ているものと考えられます。また、納品体制の見直しで倉庫での作業時間が早い時間帯かつ短くなったためその影響もあると考えられます。

・東京営業所(所属 1名)

コロナ禍による営業自粛のムードが解消されつつあり営業車の走行距離が増えましたが事務所にいる時間が減ったため、電力消費量およびガスの使用量は減少しました。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人研修については、11月19日に中堅レベルの社員も含めて行われ、その際に当社のエコアクションの活動内容について説明を行いました。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。
環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・
『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に
該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、
違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

前年度の活動に対しての評価

- ・ バイオマスインキ、ノンソルラミネートについていずれの推進も順調に進んでいますが、SDGsとのつながりでより注目が増しているため、新しいパンフレットやHPにてしっかり対外的にアピールできるように用意をします。
- ・ 今年度は電力の供給難から価格が高騰しました。電力価格が高騰するということは逆に、従来では短期間では費用対効果を得ることができなかった設備投資が、短期間で費用を回収できる可能性があるということです。そこで今年度は変圧器を最新のものに更新することで電力消費量そのものを根元から減らすことができるような手を打ちました。
- ・ 水使用量については、11月頃より漏水が発生していたと考えられますが、漏水であると原因を特定するまでに時間がかかり対応が遅れました。設備の老朽化もあり、今後も漏水は様々な箇所で発生する懸念があることから、水使用量が増えた場合はまずは漏水を疑うという意識で毎月の数字を確認するように指導をしました。

今年度の活動内容の変更について

- ・ 原料値上げに連動して当社の製品も値上げをすることになりました。しかしそのために、これまで「売上高1億円あたりの」という形式の指標を使用していたものが、製品値上げによって売上高がかさ増しされた形となり、指標としては実勢よりも良化したように見えてしまう懸念があります。今年度は受注量そのものが順調に伸びたため、売上高の伸びのうち製品値上げ分がどれぐらいになるのか数値化するのは難しいところもありますが、そういう実勢よりも良化したように見えるという前提で厳しめに数値の評価をするように指示をしました。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2024年6月30日までに作成するものとします。

12. 中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)

- ・ 今年度の始めに策定した中期計画を次年度も使用していくものとします。
- ・ バイオマス、ポタニカルマークについては今年度の時点で達成してしまったため、次年度以降は今年度末の時点を目安としてさらに上積みをするような目標に更新しました。
- ・ 廃プラスチック中の再生品の割合、インキ重量当たりの印刷機生産工賃高についても、今年度の時点で目標を達成しています。しかし、これは維持しないと悪化していく指標ですので次年度以降も数値は変更せず、目標値の達成状態を維持をすることを目標とします。
- ・ 今年度中に、当社が給電を受けていた電気事業者(アスエネ)が、給電事業から撤退をしました。そのため年度の途中からグリムスパワーより給電を受けています。しかし電力消費量からCO2排出量を求める係数については、活動の結果を把握しやすくするためにこの中期計画を履行する間は従来のもので使い続けることとします。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2020年度実績値 売上:11.72億円 (売上1億円あたり)	571,043 (48,728)	310,784 (26,520)	189,144 (16,140)	71,115	1,317	171,200 (14,609)
2022年度目標値 売上1億円あたり	47,753	25,990	15,817	69,693	1,291	14,317
2023年度目標値 売上1億円あたり	47,266	25,724	15,656	68,982	1,278	14,171
2024年度目標値 売上1億円あたり	46,779	25,459	15,494	68,271	1,264	14,025
2025年度目標値 売上1億円あたり	46,292	25,194	15,333	67,559	1,251	13,879
2026年度目標値 売上1億円あたり	45,804	24,929	15,172	66,848	1,238	13,732

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	・ノンソルベントラミネートの年間生産高について7500万円を維持する ・ポタニカルマークまたはバイオマスマークを付与した製品を、2023年をベースに2026年までに新規でさらに100アイテム受注し、生産する
資源使用量削減の取り組み	・分別を徹底し廃プラスチック中の再生品の割合について25%以上を維持する
有害化学物質使用量 削減の取り組み	・インキ・溶剤の使用量当たりの印刷生産高を、2020年度を100とした指標で2026年度まで「103」を維持する。

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は
0.374【アスエネ(登録番号A0678):2020年)を使用

13. 次年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み	
対象部署	責任者
購買電力量	
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署 環境管理責任者:尾関
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房22℃	全部署 環境管理責任者:尾関
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署 環境管理責任者:尾関
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部 工場長:田中
E) 生産設備可働率の向上	生産部 工場長:田中
ガソリン・軽油の使用量	
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署 環境管理責任者:尾関
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署 環境管理責任者:尾関
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署 環境管理責任者:尾関
D) 点検・整備の励行	全部署 環境管理責任者:尾関
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署 環境管理責任者:尾関
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部 業務部部长:川上
LPGの使用量	
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部 工場長:田中
B) 生産設備可働率の向上	生産部 工場長:田中
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部 工場長:田中
2) 廃棄物排出量の削減取組み	
一般廃棄物・事業系廃棄物	
A) コピー紙の再利用の促進	全部署 環境管理責任者:尾関
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署 環境管理責任者:尾関
C) 再生紙利用の推進	全部署 環境管理責任者:尾関
産業廃棄物	
A) 良品の不良化の防止	営業/業務 業務部部长:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部 工場長:田中
C) ロス・製造不良の削減	生産部 工場長:田中
D) オペレーターの技術向上	生産部 工場長:田中
3) 水使用量の削減取組み	
A) 節水ステッカの貼付	総務部 総務部部长:尾関
B) 手洗等の節水の徹底	全部署 環境管理責任者:尾関
C) 漏水チェック	全部署 環境管理責任者:尾関
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部 工場長:田中
4) グリーン購入の取組み	
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪 業務部部长:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部 工場長:田中
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪 業務部部长:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み	
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部 営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部 業務部部长:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み	
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部 営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え	生産部 工場長:田中
C) インクの使用量の削減	生産部 工場長:田中
D) 5S活動によるインクの整理	生産部 工場長:田中
E) インク使用量の管理	生産部 工場長:田中
F) 空調機の使用管理	全部署 環境管理責任者:尾関
G) 残インクの再利用量の増加	生産部 工場長:田中